

株式会社 北海道ジェイ・アール・システム開発

## 次世代リーダーの育成でオラクル認定資格を積極活用 「ORACLE MASTER Platinum」認定取得者も輩出



北海道旅客鉄道株式会社（以下、JR 北海道）のシステム関連会社として、長く JR 北海道グループの IT 化を支えてきた株式会社北海道ジェイ・アール・システム開発（以下、北海道ジェイ・アール・システム開発）。同社では、人こそが競争力の源泉という考え方にもとづき、人材育成に力を注いでいる。その一環として全社的に取り組んでいるのが、Oracle University の研修プログラムを活用した Oracle Database のスペシャリスト養成であり、オラクル認定資格取得者の増進だ。

### JR北海道に向けたSIサービスの ノウハウをグループ外の ビジネスにも積極活用

顧客にとっての「ベストソリューションパートナー」を目指す――。

この方針のもと、北海道ジェイ・アール・システム開発では、ソフトウェアの設計・開発・製造から情報システムの保守・運用、情報処理機器の販売、技術者の教育、さらには電気通信事業に至るまで、多岐にわたるITサービスを総合的に提供している。

同社の最大の強みは、JR北海道に対するシステムインテグレーション（SI）事業で培ってきた技術力とノウハウ、そしてサービス品質の高さだ。それらの強みを後ろ盾にしながら、JR北海道グループ以外の企業・組織に向けたSI事業も手掛けている。

その一方、ITの領域ではクラウドやIoT（Internet of Things）などの新技術が次々と登場し、大きな潮流をかたち作っている。そんなITトレンドの変化に柔軟に、かつ機敏に対応するための一手として同社が重視しているのが人材の育成である。代表取締役社長の遠藤史雄氏は、「SIビジネスは、人がすべて」と言い切り、人材育成の必要性・重要性についてこう話す。

「私たちが力を注いでいるのは、当社事業の新たな担い手の育成です。つまりは、単なる技術力だけではなく、豊富な業務知識やプロジェクトの推進能力

を併せ持つ、バランスのとれた技術者を数多く、しかも短期間で育成していくこと――。それが、当社のさらなる成長・発展には不可欠と見ています」

この経営命題を遂行すべく、同社が全社的に取り組んでいる一つが、Oracle Databaseのスペシャリストの養成であり、オラクル認定資格取得の奨励である。

### 研修開始後2年足らずで 46名がORACLE MASTERを取得

北海道ジェイ・アール・システム開発が、Oracle Databaseのスペシャリスト養成に本格的に乗り出したのは、2014年10月のことだ。この時期にOracle Universityの協力を仰ぎ、「ORACLE MASTER」認定資格の取得を目的とした研修プログラムを始動させた。それから2年足らずの2016年7月には、「ORACLE MASTER Bronze」「ORACLE MASTER Silver」「ORACLE MASTER Gold」

「ORACLE MASTER Platinum」の合計取得者数が46名に達している。

「当初は十数名程度のエンジニアがORACLE MASTER Goldを取得できればいいと考えていました。ところが技術者による資格取得のペースは予想を上回り、うち1名が最上位のORACLE MASTER Platinum資格を取得しました。これは文字どおり想定外の成果で、嬉しい誤算でした」と、遠藤氏は微笑む。

同氏によれば、ORACLE MASTERの取得を全社で奨励したことで、若手社員を中心に良い意味で競い合う環境が生まれたという。それが、多くの資格取得者を短期間で育成できた要因ではないかと遠藤氏は分析する。

さらに同氏は、ORACLE MASTER取得の効果を次のように指摘する。

「お客様の要件をきちんとドキュメントにまとめて、システムを構築することができなければ、お客様の信頼を得ることはできません。ORACLE MASTERを



株式会社 北海道ジェイ・アール・システム開発  
代表取締役社長  
遠藤 史雄氏



株式会社 北海道ジェイ・アール・システム開発  
取締役 開発部長  
市村 義博氏



株式会社 北海道ジェイ・アール・システム開発  
取締役 営業部長  
木村 輔氏

はじめとする各種資格の取得で、過去の経験やノウハウだけでなく、理論に基づく提案ができるようになったことが最大の効果といえます」

また、ORACLE MASTERのような認定資格には、技術者のスキルのレベルを証明する効果もあるという。

「たとえば、ORACLE MASTER Platinumは現場での経験がなければ取得できない資格です。そうした資格を短期間で取得する技術者が出たことで、当社の現場力の高さが改めて証明できたと感じています」（遠藤氏）。

もう一つ、同社がOracle Databaseのスペシャリスト養成に乗り出した背景には、システム開発・運用の能力をアップさせるという目的もあった。この点に関して、同社の取締役 開発部長の市村義博氏は、次のような説明を加える。

「たとえば、システム開発・運用の過程でOracle Databaseをチューニングする必要に迫られることがあります。SQL文の書き方次第でOracle Databaseの性能には大きな差が出ます。これまで、SQL文をどう記述するかは技術者個々の勘や経験に任せていましたが、本来的にはOracle Databaseの特性を理解したうえで、システムの設計・構築が行えなければなりません。ORACLE MASTER

取得に対する取り組みには、そうした技量を持ったスペシャリストを数多く早期に育成して、システム開発・運用の現場力を一層高めるといねらいがあったのです」

### ORACLE MASTERで技術者の 実力を証明 顧客への価値訴求に生かす

同社は今後、ORACLE MASTER資格だけでなく、ネットワークやセキュリティなど、他の認定資格の取得にも取り組んでいく。また、オラクルが展開するJava認定資格「Oracle Certified Java Programmer」の取得にも力を入れていく構えだ。すでにJava SE 7対応のGold資格を1名、Silver資格を4名が取得しているが、この数をさらに増やしていくという。

「人材育成は継続が大切で、すでにORACLE MASTERの資格を取得した技術者にも、さらに上を目指してもらいたいと考えています」と、同社の取締役で営業部長の木村輔氏は語り、こうした取り組みの営業面での効果について次のように指摘する。

「ORACLE MASTER取得を奨励した当初の目的は、Oracle Databaseに関する現場のスキルアップにありましたが、結果的に、技術者のスキルの証明と見える化、そして、お客様の信頼の獲得

につながっています。この成果を、今後の営業活動に積極的に生かしていきたいと考えています」

この言葉を受けたかたちで、遠藤氏は話の最後をこう締めくくる。

「今回の取り組みにより、北海道に本拠を構えるIT企業の中で、当社が最も多くのオラクル認定資格取得者を擁するようになったと自負しています。今後は、この実績をお客様への提案の場で最大限にアピールし、当社ならではの価値を北海道内外のお客様に提供していく方針です。そのためにも、日本オラクルの支援には、これからも大いに期待しています」

#### PROFILE

株式会社 北海道ジェイ・アール・システム開発

JR北海道の営業開始の翌年に当たる1988年に創設。以来、JR北海道グループに対するシステムインテグレーション（SI）事業を中心にビジネスを展開し、今日ではJR北海道グループ以外の企業・組織に対するSI事業も手掛ける。2014年から、Oracle Databaseのスペシャリスト養成に本格的に取り組む、オラクル認定資格取得に向けた研修プログラムを始動。2016年7月時点ですでに計46名が「ORACLE MASTER」資格を取得、うち1名が「ORACLE MASTER Platinum」を取得している。

## 名実ともに“Platinum”なOracle Databaseのスペシャリストを目指す

約1年半の研修で「ORACLE MASTER」の最上位資格を取得——。北海道ジェイ・アール・システム開発の山本翔太氏は、同社の経営陣が驚くほどのスピードで「ORACLE MASTER Platinum」資格を取得した。

山本氏は入社9年目の技術者で、現在は開発部 SIビジネス4 SI4第2プロジェクトのチーフとして活躍、JR北海道の車両管理システムなどの設計から開発までの一連の業務を担当している。

同氏がORACLE MASTER取得に乗り出したきっかけは、もちろん会社での研修プログラムの始動にある。

「オラクル認定資格が取得できる研修プログラムが始まると聞いてすぐにチャレンジしようと考えました。もっとも学生時代にすでにORACLE MASTER Bronze Oracle

Database 10gを取得していたので、ほかの人よりもハードルは低かったと思います」（山本氏）。

同氏は2014年10月から研修を開始し、まずは「ORACLE MASTER Bronze Oracle Database 11g」を取得、2015年1月に「ORACLE MASTER Silver Oracle Database 11g」を、3月には「ORACLE MASTER Gold Oracle Database 11g」をそれぞれ取得した。そして2016年3月には、最上位のPlatinum資格を取得している。

「Platinum資格の取得時期と当時担当していたシステムの納期が重なっていたので、日々の業務と研修を両立させるのが大変でした。しかしながら、Platinumの取得は自分のモチベーションアップにはかなり役立っています」（山本氏）。

同氏は今後、Platinum資格をOracle

Database 12c対応版へと移行させる計画だ。「Oracle Databaseに関しては、知らないことがまだまだあるので引き続き勉強を続けたい。Platinum資格の名を汚さぬよう、日々実力に磨きをかけていきたいと思います」（山本氏）。



株式会社 北海道ジェイ・アール・システム開発  
開発部 SIビジネス4 SI4第2プロジェクト

チーフ 山本 翔太氏

### 日本オラクル株式会社

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-3-13 赤坂センタービルディング12F  
oracle.com/jp

オラクルユニバーシティ  
お問い合わせ窓口

ORACLE  
UNIVERSITY

TEL 0120-155-092

URL <http://www.oracle.com/jp/education>